

表参道日記 170

二つの選挙

七夕の夜、東京都知事選の結果が明らかになる。出馬の動機すら全く理解出来ない泡沫候補の為にポスターの張り場所が足りなくなったという珍事も話題となったが、普通に考えれば、現職・小池百合子氏と前参院議員・蓮舫氏との一騎打ちであろう。

その中、厳しい舌戦が繰り広げられているところだが、共にキャスター出身(自分の世代から見ると蓮舫氏は芸能人のイメージが強いが)の、いわゆるテレビの人であり、映り方を知りつくした女性として華を感じる限りだ。

そこで政策や支持政党の違いをあえて無視して所感を述べる。女性の容姿と年齢に触れるのは、御法度と承知しているが、小生は両者のちょうど中間年齢に位置する高齢男性であり、二人ともに身近な年頃女性である。不規則発言だが、タヌキ顔で余裕の豊満女性と、キツネ顔で挑戦型の痩身女性の戦いに興味を持って見つめているところだ。

そして1週間後の都知事選の行方は一都民として極めて大切な事柄であるが、世界規模で遥かに注目されているのは大國・アメリカ合衆国の大統領選だ。

昨日、11月の米大統領選に向けた第1回テレビ討論会が、ジョージア州アト

ランタで現地のゴールデンタイムに開かれ、民主党のジョー・バイデン大統領と共和党のドナルド・トランプ前大統領が4年ぶりに対決し、世界中にテレビ発信された。

こちらは前述の美形女性キャスター出身の戦いではなく、紛れもなく「おじいちゃま」対決である。

ケネディ対ニクソンから始まり有名になったテレビ討論会。選挙結果に最も影響する重大行事と聞く。

前회가、あまりにも酷い罵りあいであつたため、相手の発言中はマイクを切る。聴衆を入れないなどの新ルールで行われたわけだが、そのような約束事が交わされなければ成立し得ないというのも、ジェントルマンを気取る白人同士の論戦として如何なるものであろうか。

誰の眼から見ても、当日の結果はトランプ氏の圧勝であつた。バイデン氏が本当に風邪をこじらせていたのであれば気の毒過ぎるが、討論会冒頭から声はかすれ、咳き込んだり、下を向いたまま数秒間固まったりと精彩を欠く場面が多々存在した。

正に世界中に老醜を晒し、強引なトランプ氏に余裕の態度を与えてしまった自滅劇であり、真面目なシナリオ内の下、

文

伊藤公一

text by Kouichi Ito

政策論争を真剣に判断するつもりがなくなってしまうた人々が多数存在したものと確信する。

いずれにしても80歳前後まで長生き出来た男性が、これから4年間、アメリカ大統領の重責に就こうという意欲に驚きであると同時に、自由の国で若者が名乗り出てこないのが不思議でならない。

Profile

1958年生まれ。伊藤病院3代目院長。
北里大学医学部卒業、東京女子医科大学大学院修了。医師になって以来、国内外にて一貫してバセドウ病、橋本病、甲状腺癌など甲状腺疾患に対する診療と研究にひたすら従事。
東京女子医大、筑波大大学院非常勤講師。日本医科大学、了徳寺大学客員教授。
日本内分泌外科学会、日本甲状腺外科学会理事。厚生労働省診断群分類調査研究班班長。
伊藤病院 <http://www.ito-hospital.jp/>
名古屋甲状腺診療所(名古屋分院) <http://www.kojin-kai.jp/nagoya/>
さっぽろ甲状腺診療所(札幌分院) <http://www.kojin-kai.jp/sapporo/>

